

九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

中村哲著述アーカイブ
Nakamura Tetsu Digital Archive

空爆と「復興」：アフガン最前線報告

中村，哲、ペシャワール会 編著

略年表、付記、奥書

<http://hdl.handle.net/2324/4772331>

出版情報：空爆と「復興」：アフガン最前線報告，pp.465-478，2004-05．石風社
バージョン：初版 2004-05-31

権利関係：©Tetsu Nakamura & Peshawar-kai Printed in Japan 2004

石風社より許諾を得て本文を公開しています。

公開しているPDFの印刷、複製および許可のない二次利用はおやめください。



KYUSHU UNIVERSITY

略年表

複製・出力・二次利用禁止

二〇〇一年一月 国連安保理、タリバン政権に対する経済制裁を発動。

二〇〇一年六月 W H O を始めとする国連機関、アフガニスタンを含む中央アジア全域で深刻な旱魃が拡がっている事実を公表。

六月 アフガニスタンでの水源確保事業開始。井戸の掘削を中心にカレーズ（伝統的地下水路）の修復を図る。

二〇〇一年三月 P M S（ベシャワール会医療サービス）、アフガニスタン首都カーブルに臨時診療所を設置。

三月 タリバン政権、バーミヤーン石仏を破壊。ダラエヌールで灌漑用の大井戸に着手。

二〇〇一年六月（二〇〇三年九月までに五基が完成。）パキスタン政府およびU N H C R（国連難民高等弁務官事務所）、パキスタンに居住するアフガン難民を国境近くのキャンプに移送開始。

二〇〇一年八月 P M S 水源確保事業による掘削井戸が六〇ヶ所を超える。

二〇〇一年九月一日 米国ニューヨークの世界貿易センタービルに二機の民間航空機が突入。九月二四日 中村医師を中心としたP M S スタッフが、外務省の勧告を受けアフガニスタンより出国。

二〇〇一年九月一六日 米国、アフガニスタンに対し、オサマ・ビンラディン氏の身柄受け渡しを求める「最後通告」。

九月一七日 中村医師、「風の学校」派遣ボランティアの石田氏とともに一時帰日。九月二一日 タリバン政府、オサマ・ビンラディン氏の身柄引き渡しを拒否。

二〇〇一年一〇月一日 中村医師、再びベシャワールに到着。

一〇月七日 米英軍がアフガニスタンへの大規模空爆を開始。

一〇月九日 P M S 副院長を中心としたスタッフ、食糧配給計画の調査のため、アフガニスタンに入国。

一〇月一一日 ベシャワール会、アフガニスタンへの食糧配給計画「アフガニのちの基金」を発表。

一〇月一三日 中村医師、国会衆院テロ対策特別委員会に参考人として出席。

一〇月一七日 P M S、ベシャワールで食糧配給計画に着手。

一〇月二〇日 ベシャワールからの食糧輸送第一便が国境を超えアフガニスタンに入国。ジャララバードに到着。（小麦トラック四台、食用油トラック

- 二台。二八三〇家族分。一家族一〇人当たりの配布量は小麦二〇〇キログラム、食用油一六リットル)
- 二〇〇一年一〇月二三日 ジャララバードで食糧配給開始(初日は九二家族への配布)。
- 一〇月二六日 第三便のトラックがベシャワールを出発。
- 一〇月二九日 テロ対策特措法成立。
- 一〇月三〇日 カールで食糧配布開始。ベシャワールからの食糧輸送第四便が出発。
- 二〇〇一年一二月二日 食糧配布計画、当初の一家族三ヶ月分を六週間分に変更、より多くの人々への配給を目的に決定。
- 一〇月九日 食糧輸送第七便、出発。
- 自衛隊イージス艦インド洋に派遣。
- 一二月一三日 カール陥落。タリバン軍が北部同盟にカールを明け渡す。PMS食糧輸送第九便、急遽国境から引き返す。東部諸郡での備蓄食糧の配布は継続。カールも一時の混乱期を除き、診療所、配給ともに継続。
- 一二月二六日 中村医師、アフガン国内での大規模灌漑水路の建設計画があることを明らかにする。
- アフガン東部サルシャヒー難民キャンプで配給開始(同キャンプは国際援助の恩恵が及ばぬ地域として以前からPMSによる支援が検討されていた)。
- 二〇〇一年一二月三〇日 アフガン東部におけるマリリア流行の報を受け、移動診療に着手。
- 二〇〇一年一二月二日 アフガニスタンの暫定行政機構の枠組みを取り決める国際会議が、ドイッ・ボンで開催。
- 一二月六日 カール、ジャララバードでの備蓄分の食糧配給も六日完了。
- 一二月八日 食糧配布チーム、カールでの調査及び食糧配布再開に向けジャララバードを出発。
- 一二月二二日 アフガン暫定政権発足。水源確保事業再開。
- 二〇〇二年一月八日 中村医師他日本人スタッフ、〇一年九月以来のアフガニスタン再入国。同日、ベシャワールからの食糧輸送便が再びアフガン国内に入国。東部の困窮地区を中心とした配給に着手。
- 一月二六日までに計八九五家族への食糧配給を完了。
- 一月二二日 アフガニスタン復興・東京会議開

幕。カルザイ暫定行政機構議長、来日。

二〇〇二年二月二日 PMS、アフガニスタン東部における長期的農村復興を目指す「緑の大地・五ヶ年計画」を発表（未配給食糧の配布、医療部門における事業継続とともに、農業支援・灌漑用水の充実に重点を置いたもの）。

二月 東部ダラエヌールのニヶ村で農業復興計画の試験農場用地計一六〇〇〇平米を地元長老会より貸与。

ダラエヌール、ワマ、ダラエピーチの診療所の立て替え工事着工。

二月 仲地省吾医師赴任。日本人医師は中村医師を含め二人となる。

二〇〇二年三月 UNHCR、アフガン難民の自主帰還支援計画開始。

カーブルにPMSによる女性（寡婦）の自立支援のための裁縫ワークショップ開設。（六月に閉鎖）

食糧配布事業終了。主な結果は左の通り。

①配布地域……カブル、ジャラバード、アチン、スピנגガル、チャブラハール、ラールプール

②食糧配布した家族……27339家族（一家族10人）

③送付した小麦粉……1884トン（20kg×94200袋に相当）

④同食用油……167キロリットル（18リットル×9280缶に相当）

*その後、PMSでは残余の食糧を緊急栄養パックとして一万パック作成し、栄養失調の子どもや妊産婦に配布した。

二〇〇二年四月 PMS、七周年記念式典。第一回日本・

現地合同理事会開催。中村医師はPMS総院長、藤田看護部長は院長代理を兼務となる。

四月 ザヒル・シャー元国王、二九年ぶりに帰国。

二〇〇二年六月 アフガニスタン・ジャラバードに医療・

水源・農業のプロジェクトを統括する「PMSジャラバード統合事務所」設立。

六月 カーブルでの家賃高騰、国連組織や諸外国NGOの活動が開始されたことから、PMSの五ヶ所の臨時診療所及び女性の自立支援ワークショップを閉鎖。また治安悪化のため、パキス

タン北西部コーヒスタン診療所長期閉鎖。

二〇〇二年六月十一日 首都カーブルでロヤ・ジルガ（国民大会議）開会。カルザイ議長、大統領に就任。

二〇〇二年七月 米軍がアフガン南部で「誤爆」、市民約五〇人が死亡。カーブルでカディール副大統領暗殺。

二〇〇二年八月三〇日 第一回沖縄平和賞受賞。受賞賞金はアフガニスタン東部ドラエビーチ診療所の移設新築費用に充てられ、同診療所を「沖縄平和診療所」とすることに決定。

二〇〇二年九月 カーブルでカルザイ大統領暗殺未遂。

九月一五日 ブディアライ村試験農場において初の収穫祭。

二〇〇二年二月一七日 ドラエヌールの試験農場にてサイレージ（牛の発酵飼料）に成功。

二〇〇三年二月八日 二〇〇一年六月に着手していたアフガニスタン・パキスタン国境トルハムのPMS掘削井戸（二基）、地元政府へ正式譲渡。

二月 ドラエヌールにおける灌漑用水路（全長一四キロ）掘削計画立案。本計画はその他、井堰・貯水ダムの建設も併

せ、一五ヶ年の長期計画として進行中。

二〇〇三年三月一九日 ドラエヌールにおいて灌漑用水路の起工式。

アフガニスタン北東部の反戦デモにおいて米英旗とともに日章旗が焼かれる。

三月二〇日 イラク戦争開始。

二〇〇三年六月一五日 水源確保事業の作業地が一ヶ所を突破。

二〇〇三年七月 中村哲医師、マグサイサイ賞（平和と国際理解部門）受賞。

二〇〇三年八月 ドラエビーチ新診療所「オキナワ・ピース・クリニック」完成披露式典。

二〇〇三年一〇月 アフガニスタン、新アフガニ紙幣発行。

二〇〇三年一月二日 用水路建設の工事現場を米軍ヘリが誤射。中村医師と二人の日本人を含め、現地作業員にも幸いに負傷者はなかった（その後、米軍は日本外務省を通じて正式に謝罪）。

二〇〇三年二月二三日 イラクの米英占領当局、サダム・フセイン元大統領を拘束。

二月一四日 アフガニスタン・カーブルで憲法制定ロヤ・ジルガ（国民大会議）開催。

主要関連地図



本書に登場する現地スタッフ・ワーカー
(2004 年 4 月現在。着任順。数字は派遣期間)

中村 哲 なかむら てつ	PMS 総院長・現地代表 1984.5～
藤田千代子 ふじた ちよこ	PMS 院長代理・看護部長 1991.9～
藤井卓郎 ふじ いたくろう	PMS 会計 1998.4.26～2002.2.25
蓮岡 修 はすおか おさむ	水源確保事業担当 1999.12～2002.7.21
目黒 丞 め ぐろ すすむ	水源確保事業担当 2000.12～2004.1.31
大月啓介 おおつきけいすけ	現地連絡員（日本電波ニュース社派遣） 2001～2002.9
中山博喜 なかやまひろき	PMS 基地病院会計担当 2001.4～
仲地省吾 なか ちしょうご	PMS 医局長 2002.2.16～
川口拓真 かわぐちたくま	ジャララバード支部会計 2002.3.25～
高橋 修 たかはし おさむ	農業技術顧問 2002.3.29～（定期派遣）
稲田和重 いなだ かずしげ	農業技術顧問 2002.3.29～（定期派遣）
長嶋 透 ながしま とおる	土木技術顧問 2002.3.29～2003.9.21
橋本康範 はしもとやすのり	農業計画担当 2002.6.3～
坂尾美知子 さかお みちこ	PMS 臨床検査技師 2002.7.28～
山崎悦子 やまざきえつこ	スタッフハウス寮母 2002.10～2003.3
宮路正仁 みやじ まさひと	農業計画担当 2002.11.11～
近藤真一 こんどうしんいち	グラエヌール診療所薬局 2003.1.27～
清宮伸太郎 せいみやしんたろう	水路・灌漑事業担当 2003.2.3～2003.3
鈴木 学 すずき まなぶ	水路・灌漑事業担当 2003.3.7～
大越 猛 おおこし たけし	ジャララバード支部会計 2003.4.4～2004.4

(2004年1月現在)

カイバル特	アチン郡	総作業地	うち利用可能水源				
			総 数	井 戸	灌漑井	カレーズ	(完成)
—	—	10					
—	—	22	29	13		16	2
—	—	64	29	13		16	3
—	—	147					
—	—	247					
—	—	292					
—	—	349	204	177		27	78
—	—	355					
—	—	372					
—	—	384	309	279		30	162
—	—	438	358	329		29	192
—	—	497	411	380		31	219
—	—	522	472	441		31	244
2	—	566	504	469		35	320
2	—	600	512	480		32	380
2	29	650	549	521		28	399
2	36	658	602	572	1	30	455
2	52	699	557	529	1	28	429
2		731	577	549	1	28	
2	117	769	641	605	1	36	411
2	144	803	647	611	1	36	473
2	174	843	709	670	2	37	
2	170	857	775	739	3	33	676
2	170	864	784	748	3	33	765
2	166	867	757	725	4	28	662
2	166	883	813	780	5	28	727
2	166	897	843	810	5	28	760
2	166	905	823	790	5	28	785
2	166	921	831	798	5	28	795
2	166	959	875	842	5	28	848
2	166	983	919	876	5	38	848
2	166	1000	932	889	5	38	873
2	166	1021	939	896	5	38	910
2	165	1039	957	914	5	38	940
2	165	1061	996	951	7	38	978
2	165	1071	1006	959	9	38	989
2	165	1094	1030	983	9	38	1007
2	166	1108	1037	988	11	38	1018

水源確保・作業地の推移						
年	月 日	グラエ・ヌール溪谷			ソルフロッド郡	ログト郡
		井 戸	灌漑井	カレーズ		
2000年	7月4日	10			—	—
	8月2日	15		7	—	—
	8月24日	15		19	30	—
	9月11日	15		19	113	—
	10月6日	18		25	204	—
	11月2日	35		28	229	—
	12月10日	35		30	284	—
2001年	1月10日	42		35	278	—
	2月5日	42		34	296	—
	3月11日	43		38	303	—
	4月8日	47		38	304	49
	5月21日	51		39	304	103
	6月11日	53		38	304	127
	7月6日	59	1	38	306	160
	8月10日	59	1	38	320	180
	9月10日	59	1	38	321	200
	11月17日	59	1	38	321	201
	12月17日	59	1	38	321	201
2002年	2月21日	81	1	38	323	202
	3月15日		1			
	4月15日	86	1	38	323	202
	5月20日	94	1	38	322	202
	8月13日	103	2	38	322	202
	10月1日	117	5	38	320	202
	10月20日	125	5	38	322	202
	11月17日	133	5	38	321	202
	12月1日	136	5	38	334	202
	12月17日	150	5	38	334	202
	1月17日	151	5	38	341	202
	2月18日	162	5	38	346	202
2003年	4月2日	178	5	38	368	202
	5月18日	192	5	38	378	202
	6月16日	200	5	38	387	202
	7月24日	212	5	38	396	202
	8月26日	226	9	38	397	202
	10月5日	242	9	38	403	202
	11月21日	251	9	38	404	202
	12月28日	269	11	38	407	202
	1月18日	275	11	38	409	207

備考：

1. 作業地数は水路工事のため、拡張を控え、完成に力を入れている。
2. グラエ・ヌールの灌漑井戸を倍増、いずれも利用可能。今季の小麦作付けに間に合った。
3. 水職員が用水路の取出口工事に総動員されて、2月までは急増は期待できないが、需要は増え続けており、今春から再び増加見込み。
4. 灌漑井戸作業班を6チームに増加、グラエヌール下流の完全回復を目指す。新たに3ヶ所の候補地で開始。

付記

・本書は①中村哲医師が二〇〇一年九月一日の米国同時多発テロ事件直後から二〇〇三年末まで、メディアに寄稿した主要な論考、②中村哲医師と現地派遣スタッフが同じく二〇〇一年九月以降に、ペシャワール会の機関誌「ペシャワール会報」に寄せた活動報告、及び③現地派遣スタッフが、日本側事務局や帰国中の中村哲医師、あるいは日本側農業技術専門家等へ送った主要な活動報告のeメール、④中村哲医師が日本側事務局とペシャワール会員に送った主要な活動報告のeメールから構成されている。

・二〇〇四年以降、ペシャワール会のアフガン側事業は、同国東部クナール河沿いに建設中の灌漑水路建設計画（全長一四km、一日平均五〇〇余名の現地作業員が掘削に従事）を中心に精力的に継続されている。この間、軍閥の勢力復活による治安悪化、米軍武装ヘリによる作業地への誤射事件（二〇〇三年一月）や、高給を支払う国連機関等の諸外国援助団体への相次ぐスタッフ流出、工事の難航など、諸問題が噴出したが、二〇〇四年三月現在、約三キロメートルの掘削を終了し、クナール河からの取水口が完成。三月初旬に二キロ地点までの通水式が執り行われた。

・本文の表記については数字や単位、地名、固有名詞などについて一部訂正または統一を施した。また明かな誤字などは訂正し、句読点、改行、カギなどを編集部で補った箇所や、読者の利便を考慮し、○内に解説を付した箇所もある。

初出紙誌一覧

アフガニスタンからの発言

「対テロ戦争」の虚構（原題「飢餓状態の解消がテロ根絶への近道。」『潮』二〇〇一年二月号、潮出版社）

報道されないアフガンの真実（原題「報道されないタリバンの素顔」『中央公論』二〇〇一年二月号、中央公論新社）

自衛隊派遣は有害無益（国会衆議院テロ対策特別委員会での参考人意見陳述、二〇〇一年一〇月一三日）

「援助の論理」を憂う（原題「アフガン空爆はまだ続いている。」『潮』二〇〇二年七月号、潮出版社）

破壊と援助の連鎖（『ペシャワール会報』七十一号、二〇〇二年四月二十六日）

復興という名の破壊（『ペシャワール会報』七十二号、二〇〇二年七月一〇日）

オキナワからアフガニスタンへ（第一回沖縄平和賞授賞式典での謝辞、二〇〇二年八月三十一日）

戦禍の大地に緑と平和を（『ペシャワール会報』七十三号、二〇〇二年一〇月一三日）

「緑の大地」を求めて（『ペシャワール会報』七十四号、二〇〇二年十二月一八日）

水利事業への挑戦（『ペシャワール会報』七十五号、二〇〇三年四月一六日）

アジアの片隅で平和を拓く（マグサイサイ賞・平和と国際理解部門授賞式典△二〇〇三年八月三十一日△での謝辞）

アフガン復興の帰結（原題「アフガン復興 その伝わらざる〈現実〉」『論座』二〇〇三年九月号、朝日新聞社）

恩讐を超えて（『朝日新聞』西部版夕刊、二〇〇三年六月一四日）

平和を奪還せよ（『ペシャワール会報』七八号、二〇〇三年十二月一七日）

空爆と「復興」

すぐ隣の国の子供なのに／最悪の天災時に、この小さな町で／「日本人だけは信じる」

(以上三本、「ペシャワール会報」六九号、二〇〇一年一〇月一七日)
形なき誠意を届ける／腰を据えて、一つの事業を／「ルビーも無駄にしない」

(以上三本、「ペシャワール会報」七〇号、二〇〇一年二月一九日)
空爆下の村では誰もが貧しかったのです／他意のない事業こそ

(以上二本、「ペシャワール会報」七二号、二〇〇二年四月二六日)

食糧とスタッフの無事を祈った日々(「ペシャワール会報」七二号、二〇〇二年七月一〇日)

今こそスタッフの基礎訓練を／NGOのするべき仕事とは／パイロットファームは収穫のまっ盛り／魅力ある農場を目指す(以上四本、「ペシャワール会報」七三号、二〇〇二年一〇月一三日)

百年一日の如き国／一通の嘆願書(以上二本、「ペシャワール会報」七四号、二〇〇二年二月一八日)
日本とアフガンの平和を危惧／わずかな恵みを求め生きる人々

(以上二本、「ペシャワール会報」七五号、二〇〇三年四月一六日)

アフガンの握手をわが身に刻む／アフガン流臨床心得(以上二本、「ペシャワール会報」七六号、二〇〇三年七月九日)
わが「現実」はアフガンの農場にあり／蛇籠は完成、次は聖牛

(以上二本、「ペシャワール会報」七七号、二〇〇三年一〇月一五日)

今こそ我々の出番／灌漑用水路建設の最前線から／日本人の願いを伝えたい

(以上三本、「ペシャワール会報」七八号、二〇〇三年一二月一七日)

アフガン最前線報告(すべてeメール)

＊ペシャワール会 中村医師のパキスタン・アフガニスタンでの医療活動を支援する目的で結成

されたのがペシャワール会です。現在、福岡市に事務局を置いて会報の発行を通して情
宣・募金活動ならびにワーカーの現地派遣等を行っております。ペシャワール会ならび
にワーカー派遣についてのお問い合わせは、左記の事務局宛にお願いいたします。年会
費は、学生会員一口千円以上、一般会員一口三千円以上、維持会員一口一万円以上。

●事務局

〒810―0041

福岡市中央区大名二丁目一〇―二五 上村第二ビル三〇七号

F A R A H O U S E

電 話(〇九二七三一―二三七二(例会 毎週水曜日・夜七時))

F A X(〇九二七三一―二三七三

《入会手続》年会費を郵便振替にてご送金下さい。

口座名義〓ペシャワール会

郵便振替番号〓01790―7―6559

空爆と「復興」 アフガン最前線報告

二〇〇四年五月三十一日初版第一刷発行

編著者 中村 哲

ペシヤワール会

発行者 福元満治

発行所 石風社

福岡市中央区渡辺通二丁目三番二四号
電話 〇九二(七一四) 四八三八
ファクス 〇九二(七二五) 三四四〇

〒810-0004

印刷 九州電算株式会社

製本 篠原製本株式会社

© Tetsu Nakamura & Peshawar-kai Printed in Japan 2004

落丁・乱丁本はおとりかえいたしません